

## 「母の終活代行」

日々、認知症の母と格闘中の高野です。

認知症は、季節や時間、場所、人の順にわからなくなってくると言いますが、うちの場合、場所までがおかしくなっています。

毎日のようにデイサービスに通っているのですが、そこを何故かお寺とっていて、帰り際、いつも「明日もお寺にいくとね？」と聞いてきます。この質問は帰宅しても無限ループのように繰り返されるので、外出といえば「お寺」と信じ込んでいるのでしょう。

先日も「私(母)、足が痛いから代わりにヒデコちゃん(嫁)、お寺(デイサービス)に行ってくれんやろか？」と朝から嫁にお願いしたようで、大笑いしたところでした。

また、人に関する記憶も怪しく、私と嫁の名前は覚えてくれているのですが、子ども達の名前は呼びません。ボケていてもまだ自分の生命線だけは覚えているようです。

そんな状況ですから、思い切って実家を処分することに。親とはいえ、人の物を処分するのは気が重いものですね。決断するまでに2~3か月かかりました。

そんな訳で、この夏は妹達と何度も実家に立ち寄り、必要なものを選別。最後まで迷ったのは母の和服くらいだったでしょうか。

他は思い出はあっても使わないものだらけなので、最終的に、家家財は丸ごと廃棄業者に処分してもらうことにしました。

驚いたのは、その見積もりです。なんと！40万近くするではありませんか！

エアコンだって洗濯機だって冷蔵庫だって、古くはあるものの現役で使ってるのに……。テーブルや食器も中古品としての価値はないとのことで、ただ処分してもらうだけ。

この作業を依頼して俺はこの先、シンプルに生きようって、思いました。

何を捨てるかは何を遺すかという問題でもあります。母のモノ、亡父のモノ、家族のモノを捨てながら、人間にとって本当に必要なモノって何だろうって、考えさせられました。

日々、物を買う時、あれだけこだわって、値段だって十二分に吟味しながら買っているにも関わらず、気づけば我が家も使わないものだらけ……。

苦勞して買ったものを、最後はお金をかけて捨てる滑稽さ、そしてなんとも言えない虚しさを感じます。

母の終活を代行してみて、私も家内も同じようなことを、我が子にはさせたくないなと痛感しました。

お金って何だろう？物の価値って何だろう？

物との付き合い方を根本から考え直す良い機会となりました。

そして今、まずは自分の書斎から整理整頓を進めているところです。